

令和 8 年度リンダウ・ノーベル賞受賞者会議 参加報告書 兼 アンケート

参 加 会 議： 第 75 回会議(三分野合同)

所属機関・部局・職名： 大阪大学・基礎工学研究科・特任研究員

氏 名： 上田唯花

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3 名程度)を挙げ、記載してください。〕

本年度は 3 分野融合年であったため、様々な分野のノーベル賞受賞のレクチャーを拝聴することができた。受賞に至るまでのキャリアや、より詳細な研究内容まで、それぞれの受賞者でトピックは多様だったが、一貫して「自分が本気でやりたい研究にチャレンジする大切さ」を感じた。ノーベル賞受賞という歴史に残る素晴らしい功績を残された研究者達が、楽しそうに熱く自身のサイエンスを語る姿は、勿論結果面では現時点ではるかに及ばないものの、それでも断裂された全く別世界ではなく、研究者という同じフィールドの先で繋がっているように感じとても励まされた。彼らのように自分が信じる研究で結果を残すことで、分野を超えて人々に勇気や励みを与えることができるように精進していきたい。

印象に残ったノーベル賞受賞者

Katalin Kariko

生まれからノーベル賞受賞に至るまでのキャリアのお話があった。科学者などがいないような田舎町で育ち、ただ学校の先生に「Scientist になれる」と言われた言葉をきっかけに科学者の道に進まれた。組織ごとに縛りがあった研究テーマや職を失う経験など、決して順調な道ばかりではなかったが、自分がしたいことを信じてエネルギーを注いだお話がとても刺激を受け感動した。また女性として子育てをしながらの研究人生のお話の中で、すべてをパーフェクトにやることなんて無理だという言葉が励まされた。

Omar M. Yaghi

金属イオンと有機分子が結びついて形成される多孔性の結晶材料である金属有機構造体(MOF)の確立に関する研究テーマについて、分野外の私でもわくわくするようなトークだった。本材料を用いて砂漠で実際に水を回収しそれを飲む映像が印象的だった。材料の発見というサイエンスが実際に生物の生活を支える新しい技術に繋がることに刺激を受けた。またメッセージとして、適切な準備があれば誰でも新しい発見ができるという言葉が心に残った。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やエクスカッション等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

約 70 名のノーベル賞受賞者が参加されており、セッションの合間や Dinner, Lecture などでの座席等、直接会話できるチャンスが終日多くあった。参加者が多い分、会いたいノーベル賞受賞者を見つけ出す大変さはあるが、分野を問わずサイエンスで大きな功績を出された受賞者と会話できる非常に贅沢な空間だった。研究トピックからプライベートまで、気さくに会話をして頂き、研究者としてひとりの人間として、とても憧れを感じた。

印象に残ったノーベル賞受賞者

Martin Chalfie

自身の研究でも日常的に使用する GFP の発見と生体利用でのノーベル化学賞受賞であり、本会で直接お話できてとても嬉しかった。研究の話もプライベートも、ユーモアたっぷりに楽しく話してくださる素敵な人柄に一層ファンになった。ノーベル賞受賞者をセミナーに呼びたいなら、受賞した過去の話じゃなくてこれからの話を聞きたいといういいよ、研究が好きだからね、というコメントがいつまでもサイエンスを追い続ける研究者としてのカッコよさを感じた。またサイエンスが向いていないと一度アカデミアを離れ、色んなアルバイト(洋服屋や教師など)をしたお話も印象的だった。自身も一度完全にアカデミアを離れた過去があり、まっすぐじゃない道を進んできたことを楽しそうにお話されていたことが勝手ながら励まされた。

Sir Richard J. Roberts

ディナーで運よく隣の席となりお話を伺うことができた。一緒に働く人を選ぶ際に重視することはなにかと伺ったときに、その人がなにをしたいと思っているか、論文や推薦書とかはどうだっていいと答えられたのが印象的だった。自分がなにをしたいかの一点がいかに重要で、またその魅力的な問いを立てることがいかに難しいかを感じた。今後の研究で常に意識していきたい。

Ben L. Feringa

自身の研究対象でもある分子モーターに関連したノーベル賞を受賞されており、移動の際に声をかけることができた。日本開催の HOPE Meeting でもお会いできた過去があり、ここで再会できとても嬉しかった。変わらずチャームングで優しいお人柄に励まされた。また Dinner ではダンスを楽しそうに踊られていた。

3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

ポスドクや PhD 学生を中心に、世界中から集まった同世代の優秀で活発な研究者達との交流は非常に刺激が多く励まされる機会となった。特に本年度は分野合同会であったことから、現在学際分野に位置する領域で研究に励む自身にとって、専門を絞った一般的な学会では得られない様々な専門分野とのディスカッションを日々行えたことはとても貴重な機会となり、今後の研究に生かしていきたい。また研究だけでなくキャリアに関する話も、同世代だからこそとてもためになった。海外からの参加者の多くは、学部・修士・博士・ポスドクの過程で国を変えての移動を経験していた。ポスドクとして海外へ挑戦することを考えている私にとっては、国や研究機関の話、アプリケーションや選択の背景など、国内ではなかなか得られない情報も多く、とても勉強になった。グローバルで研究に挑戦することが当たり前の参加者に囲まれたこの一週間は、刺激と励みになった。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

日本からの参加者との出会いと交流は、本会議に参加したことで得られた貴重な財産となった。本会議は分野合同であったことから、ほとんどの参加者が初めて繋がる機会となった。また既に海外で研究に取り組んでいる日本人らとも繋がることのできた。非常に優れた研究成果を出し、さらに高い志で研究に取り組む他参加者に囲まれ過ごした日々はとても学び多く、今後もっと頑張りたいというピュアなモチベーションになった。分野が異なる中でもそれぞれの研究について語り合った時間は、忙しい日々の中でなかなか意識できなくなっていたピュアなサイエンスの楽しさを思い出すきっかけとなった。またキャリアについても似たような悩みを持っている人との共有や、少し先で活躍されている人たちからのアドバイスはとても励まされた。今後もずっと繋がり刺激を受けたいと思える仲間に出会えたことは大きな財産となった。

5. 特に良かったと思うリンダウ会議のプログラム(イベント)を3つ挙げ、その理由も記載してください。

①Nobel Walking:

約 10 人程度の参加者がノーベル賞受賞者とリンダウの素敵な街並みを散策しながらトークができる非常に貴重な時間。解放感がある中で、距離感も近く約 2 時間じっくりお話することができる。

②Nobel hours:

希望のノーベル賞受賞者と各ルームで質疑応答ができ、人数が多くないからこそトークの機会が多い。運よく参加したルームでは本物のノーベルメダルを持たせていただくこともできた。

③Boat Trip:

Mainau Island に乗船し行き、外でのパネルディスカッションやピクニックを行う。帰りも他参加者との交流が活発にあり思い出となった。

6. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット[具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載してください。]

参加者との強いネットワークを構築することができ、SNS 等の連絡先を交換し今後の訪問予定を話し合うことができた。同分野の研究者とは論文のシェアやポストドク候補ラボの共有など具体的に貴重な情報交換を行うことができた。

7. リンダウ会議への参加を通して得られた上記の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

ノーベル賞受賞者を見て話して感じた、「サイエンスは面白い、そして研究者はとんでもなくカッコいい」、というピュアな感想を日本で伝え、また自身もいつか誰かにそんな風な励みを与えられるように励んでいきたい。また同世代の世界で挑戦する若手研究者を見て、もっと頑張らないといけないという非常に良い刺激を得られた。国内だけに目を向けず、自分がやりたいことは世界基準で影響を与える問いなのか、それを実現するためにはどうすればいいのか、と常にグローバルな視点で研究に挑戦することが日本人研究者として貢献するための使命のように感じた。

8. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージ

本会議中で得られた交流や経験の全てが自身の大きな刺激や励みとなりました。特に分野融合年度は、普段の生活では関わるような研究者達とのネットワークを構築することができます。論文や歴史書の世界の人だったノーベル賞受賞者と食事をし、散歩をし、ダンスを踊れる機会は忘れられない思い出になると思います。会議も刺激し合える仲間も世界中にできます。是非挑戦してみてください。

(以上の記載内容は、氏名と併せて日本学術振興会ウェブサイトに掲載されます。)